



東京部会(第 20 回)

日 時: 2009 年 4 月 23 日(木)19:00~21:30

場 所: 日本大学経済学部 3 号館(図書館)4 階会議室

参加者: 篠原(同志社大)、中川(日大)、井尻(日大)、大倉(文科省国立教育政策研)、新井(都立西高)、高橋(桜修館中等教育)、三枝(目黒中央中)、鈴木(日本経済教育センター)、中沖(清水書院)、宮尾(筑波大)[順不同]

【内容要旨】

1. シンポジウム、教材作成、ワークショップ等について

最初に篠原先生より、大阪での「シンポジウム」については、当初の予定の 7 月ではなく、秋に開催の方向で調整中との報告があった。また、資金集めを容易にするために、法人会員の資格をより広く定義する会則変更の原案が提示された。経済広報センターと共同で小中学生用の教材を開発する件については、三枝先生に相談してメンバーを集めてブレインストーミングをする方向で検討。さらに、中央三井トラストホールディングスより話のあった港区の小学生向けの教材作成と授業を行う件も、三枝先生に相談して進めることとなった。

夏に東証との共催で行うワークショップでの研修については、東京で 8 月 6-7 日に中学対象で、「教科書をなめるような解説」を行い、8 月 18-19 日には高校対象で、そのうち 1 日だけ金融など 2-3 のテーマを選んで解説する予定。名古屋では 8 月 3-4 日に、また大阪では 8 月 10-11 日に、中高対象で行う。さらに、札幌では、8 月 5 日に北海道公民科研究会と共催で、高校対象で行う予定(さらに 7 月 27 日には八戸で開催)。なお、ワークショップの詳細案については、新井先生の配布資料を参照。

2. 金融の教え方について

このところ焦点が当たっており、またワークショップでも主要なテーマになる「金融の教え方」について、篠原先生より口頭での簡単なプレゼンがあった。ポイントは、ほとんどの教科書で、「マネーとは何か」、「金融について」、「日銀の政策」、「金融制度改革」といったテーマが、金融のしくみや機能の説明なしに解説されているだけなので、それらを一貫して分かりやすく教えるべきとのこと。マネーについては、市場取引の効率化の役割が重要。金融については「貯蓄から投資」への意味を正しく解説して、時間選好、リスク、情報の非対称性などのエッセンスを教えた上で、資金の効率的配分という視点から、間接金融と直接金融の比較を行う。また株式取引ゲームは、フローとストックの違いを説明しつつ金融の理解を深めるために行うことは可能。ただし、もっとも誤解を招きやすいので注意が必要。

以上のプレゼン内容をもとに、参加者の間で議論し、特に、「投資」の意味の明確化の必要性、また株式の取引だけに注目することの問題点などが指摘された。篠原先生が近々まとめられる「金融の教え方」の案をさらに検討することとなった。

3. 公共財ゲームについて

中川先生より、これまで指摘された問題点を踏まえて修正した「マンション耐震化ゲームの見直し案」を、配布資料をもとに詳しく説明。それを補足する提案を、配布資料「提案：公共財ゲームの理解促進のために」をもとに、宮尾が説明。さらに、高橋先生より、単純化した繰り返しゲームを組み込んだ「社会科(公民科)学習指導案」の説明があった。それらをもとに参加者による討論が行われ、いくつかのポイントが指摘された。

中川先生の見直し案は、耐震偽装問題にからめて、資産価値を「復元」とする視点か、あるいは各個人が競って資産価値を最大化しようとする視点か、どちらを強調するかが重要との指摘があった。また高橋先生のゲームについては、何を目的としてどのような導入と解説を行うかが重要で、その点では具体例として、灌漑よりも道路整備のほうがよいのではないかという示唆があった。

(文責: 宮尾)

次回開催予定: 5 月 28 日(木)19 時~21 時、日大経済学部 3 号館(図書館)4 階会議室

「ワークショップの内容」および「入試問題の検討」について議論する。